

「JAPAN HOPE」

綾川町立綾川中学校1年 横井 宏行

HOPE。僕にとって税金は希望だ。

両耳小耳症の僕は小学校五年生から六年生の時に耳介形成手術を四回受けた。医療費、入院費などとても高額だ。耳介形成手術を受ける時に、何か医療費の制度がないか父が調べてくれた。育成医療という自立支援医療制度があることが分かった。育成医療とは、障害児で、その身体障害を除去、軽減する手術等の治療によって確実に効果が期待できる者に対して提供される、生活能力を得るために必要な自立支援医療費の支給を行う制度だ。

僕は対象となる聴覚障害の先天性耳奇形にあたり、市町村に申請書を提出して育成医療を利用することが出来た。

小耳症とは、生まれつき耳の形が小さい、ない、難聴を伴う先天性の病気だ。僕は両耳難聴で補聴器をつけていて、右耳は少し耳の形はあるが、左耳は耳たぶの下の部分しかない小耳症だ。手術をするまでは、めがねをかけることも出来ず、マスクを耳にかけることも出来ない。耳にかける補聴器を装着することが出来ず、カチューシャ型の補聴器をしていた。生活面で、難聴の僕は耳かけ型の補聴器が使えないのはとても苦勞が多く、マスクも頭からかぶるように工夫していた。耳介形成手術をしてからはマスクもめがねもかけることが出来、新しい耳かけの補聴器を使うことが出来る。新しい世界が目の前に広がってとてもうれしかった。今までは出来なかったことが出来る喜び、希望しかない。

耳介形成手術は、一回につき百万円かかる。僕は四回手術なので合計で四百万円、家族にかける負担は大きい。金額のことを考えた時、僕は左耳の手術だけにしようと悩んだことがある。生活に不便があっても家族の負担を考えたら片耳手術でいいと考えていた。その時、父から育成医療のことを聞き、医療費一割負担で手術を受けさせてもらえることを知った。

片耳でなく両耳手術を受けられる。と思うとうれしくてうれしくてありがたいの気持ちであふれていた。無事、両耳四回の手術を終えて今、マスクを耳にかけて、耳かけ型の補聴器の購入を検討している。僕にたくさんの希望を与えてくれた育成医療制度にたくさんのありがとうを伝えたい。この育成医療制度は、みなさんが納めてくれた税金が使われている。僕のように、障害を持って生まれた子供が手術などの治療を受けて将来、今よりも生活しやすくなるように出来た制度だ。手術前にはなかった、前向きにいろいろなことに希望を持って取り組む意欲がわいている。税金というと納めていてもどんな所に使われているか見えにくく分かりにくいイメージだ。しかし、影で僕たちを支えてくれている税金。助けが必要な人に手を差し伸べてくれている税金。僕が体験したことを一人でも多くの人に伝えて税金の大切さを知ってほしい。僕に希望というプレゼントをありがとう。